

木のデザインを考える

木造耐火や都市建築のあり方など

下馬プロジェクト



木のデザインについて語り合うメンバー

イトーキは5月24日、イトーキ東京イノベーションセンター・シンカで「ティンバライスシンポジウム」新しい木のデザインとは」を開催し、ティンバライスの理事が設計した東京都内で建設中の木造5階建て（1階はRC造）の話題を中心に、新しい木のデザインについて討論した。このプロジェクトは「下馬プロジェクト」と呼ばれているもので、10年の歳月をかけてようやく実現するものだ。

下馬プロジェクトはメンバリーに相談。当時2003年、ティンバライスの前身に当たる高層木造研究会の活動を知られた土地オーナーが自身の土地に木造集合住宅の建設を決め、

認知がな
く、賃貸住
宅ローンを
組むために
時間を要し
ているうち
に、姉歯事
件を契機と
した構造偽
装問題で建
築基準法の
厳格化が実
施された。
一度は確
を確保した。
床は120ミリの厚

認申請を取得したが、
基準法の厳格化により
適合性判定を取得する
ことが必要になり、こ
れに対応。木のまち整
備促進事業の補助を受
け、昨年着工し、近く
完成する。1時間耐火
構造については、独自
に石膏ボードと発泡黒
鉛シートを用いた耐火
被覆による認定を取得
し、エレベーターシャ
フトまわりの耐力壁や
外周部の斜材で水平力
を負担。木造耐火構造
でありながら、斜材で
木材を現しにすること
で木造としての意匠性
を確保した。

板を2層直交させた木造スラブで構成。メンバリーが木のデザインについて討論した際、「木造耐火で木が現しになっていることが重要と言われるが、最近の木造は、見えなくても木造の良さが伝わるように感じる」と下

理事長に瀬戸亨一郎氏

日田木材協總會

日田木材協同組合（大分県日田市、佐藤浩幸理事長、57組合員）は5月27日、第64回通常総会を開催し、19代目の新理事長に瀬戸亨一郎氏（瀬戸製材社長）を選任した。

佐藤理事長は1期2年の在任期間だったが、「世のながが変わり、

馬プロジェクト設計者の小杉栄次郎氏が指摘した。「現場で話をしても音の響き方が違う」と同じく設計者の内海彩氏。「内装が真っ白で壁が全部斜めのハチの巣ハウスを設計したが、木は見えない

が感覚的に感じることもできる」（布施靖之氏）などティンバライスの他のプロジェクトも含めて、木を使ったデザインが鉄やコンクリートによるモダンデザインとどのように違うかについて、それぞれの見解を交換した。

組合総会



同協組の主な事業の前年度実績は、取扱量で原木市場事業1万7389立方材（前年度比26%減）、製品共販事業1万4029立方

瀬戸新理事長は「今何から手をつけたいのかと考えている状況で、日田木協の歴史を改めて勉強している。ともかく組合員の協力がなければ何一つできることはない。関係各位のご協力、ご支援をお願いしたい」とあいさつした。